

当会の田中会長（トヨタ自動車北海道(株)顧問）が、平成29年8月21日(月)付の、日刊工業新聞に紹介されました。

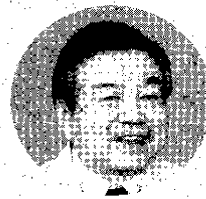
PR活動に手応え

北海道機械工業会の会長として8年目を迎えた。北海道は製造業が弱いと言われているが、北海道のモノづくり発展のためにもっとPRし、さまざまな意見を聞くなど、さらに製造業を大きくする団体にしていきたいと思っていた。

工業会に入った時、親睦団体の雰囲気があると感じた。だが「楽しいだけでは衰退する。各企業のビジネス拡大発展につなげていきましょう」と山口俊明専務理事（当時）にも話し、そ

北海道のモノづくり強く

北海道機械工業会会長 田中 義克
（トヨタ自動車北海道顧問）



主張

ういう方針でやってきた。食産業や大学などと連携して製造業を発展させること

で工業会の会員も増え、道内モノづくりも発展していくと考えたからだ。

道内企業の経営者の見聞を広めることも重要だと考えた。中国の内陸部やカンボジアなど、主に発展途上国への視察会を6年間で6回実施した。すぐに進出をして何かをするということはないと思うが、見聞を広めることで、将来役立つことがあるのではないかと。北海道経済連合会（道経連）の副会長も務めており、工業会会長との相乗効果を出したいと考えていた。その一つが、道経連の中に「今後の北海道のモノづくりを考える会」を立ち上げ、意見をまとめて北海道へ提案したことだ。北海道で「製造業に携わっていることは良いことなんだ」と思われるようにしたかった。

また、モノづくりには女性の力も重要だ。北海道に

よる「ものづくりなでしこ応援プロジェクト」が始まり、モノづくりの現場に女性が入るなど、手応えを感じている。

期待大きい再生工ネ

最近では、高橋はるみ知事や道経連がさまざまな場所、北海道の強みである食と観光に続く3本目の柱としてモノづくりを挙げるようになった。少しは普及してきたが、十分ではな

水素で6次産業化目指す

い。他業界団体や大学との連携という意味では、6月に北海道ハイオ工業会、北海道科学大学、北海道薬料大学と連携協定を結んだ。これから先が楽しみだ。

水素やロケットなども注目される産業だ。道経連の総会で、北海道大学公共政策大学院の鈴木一人教授が講演していた「宇宙開発の6次産業化」というのは「なるほど」と思った。宇宙ロケットを打ち上げるだ

けでなく、ロケットの製造や、ロケットを観光にも使っていく。水素も「6次産業化」を目指すべきだ。北海道で再生可能エネルギーを原材料に水素をつくる、使う、販売する。つくるだけでは、ただの原材料供給基地になってしまう。

北海道は再生可能エネルギーの宝庫と言われているし、産業として十分成り立つはずだ。水素では工業会のメンバーでも関わる企業が出てくることを期待している。

たなか・よしかつ 76年（昭51）名古屋大理工学研究科修士修了、同年トヨタ自動車工業（現トヨタ自動車）入社、04年常務役員。06年トヨタ自動車北海道社長、17年顧問。愛知県出身、65歳。